

「THIS IS A COPY, NEXT IS THE ORIGINAL」(※特権あり)

【上映作家】クリヨウジ / 福島治 / 古川タク / 岩井俊雄 / IKIF / 浅野優子 / 水江未来 / 工藤雅 / 許岑竹 他
インディペンデント・アニメーションの傑作とスクリーンで出会う

アニメあらかると! まわる、つながる、アニメーション

ラゾーナ川崎プラザソル (ラゾーナ川崎プラザ5F) 〒212-8576 川崎市幸区堀川町72-1
【会場】 一般600円 小中学生400円 未就学児・障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名 無料
【料金】 一般600円 小中学生400円 未就学児・障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名 無料
【定員】 150名
【主催】 川崎市市民ミュージアム 有限会社鈴木映画
【申込期間】 2025年7月30日(水) 10:00~8月19日(火) 16:00
※1組4名まで応募可、申込多数の場合は抽選(当選者のみに入場券となるハガキをお送りします。当日かならずお持ちください。)※当日券を販売する場合はWebサイトでお知らせします。
2025年 9月6日(土) 14:00~16:00(受付開始13:00)

※証明書は原本をご提示ください
お支払いは当日会場にて(現金のみ)

<https://www.kawasaki-museum.jp/cinema/32106/>

申込・詳細はこちら



川崎市



KAWASAKI
CITY
MUSEUM

川崎市
市民ミュージアム

IN ACTION

映像の技術が発達した19世紀、フェナキスティスコープ(驚き盤)やプラクシノスコープといった映像玩具が次々と登場しました。これらの装置を手で回すと、絵が生きているように動き出します。こうして誕生したアニメーションは、以来人々を魅了し続けています。「アニメあらかると」第3回は、インディペンデント・アニメーションと呼ばれる、個人作家が自由な手法で制作した作品を特集した上映会です。アニメーションの起源に通じる、映像の楽しさと驚きを、スクリーンで是非感じてください。

『人間動物園』

(1961年/3分/16mm上映)

『世界はわがもの』

(1969年/10分/デジタル上映)

ユーモア溢れる実験的な作品で、インディペンデント・アニメーションの先駆者として世界に知られるクリヨウジ。1958年久里実験漫画工房を設立し、2024年に亡くなるまで生涯現役で制作を続けた。本作はアニメーションの新しい表現を切り開いた初期の傑作である。



YOJI KURI
クリヨウジ

『とびら』(1971年/5分/デジタル上映)

CMやNHK「みんなのうた」「おかあさんといっしょ」等のアニメーションを数多く手がける福島治の作品の中から、海外でも評価が高かった作品を紹介する。一人の男がとびらを開くと、三次元が二次元になったり、四次元に勝手に変わる不思議な世界が展開していく。



HAL FUKUSHIMA
福島治

『驚き盤』(1975年/5分/16mm上映)

久里実験漫画工房を経て70年代よりフリーランスで活躍し、イラストレーターでも知られる古川タク。本作は回転盤の絵を動かす装置フェナキスティスコープを使用したアニメーションで、その後続く映像作家達に影響を与えた作品である。



TAKU FURUKAWA
古川タク

『THIS IS A COPY, NEXT IS THE ORIGINAL.』

(1982年/3分/デジタル上映)

『えんそく』

(1984年/1分/デジタル上映)

メディアアーティストであり、絵本作家としても活躍する岩井俊雄が、大学時代に8ミリフィルムで撮影した作品で、コピー機で制作した驚き盤と手描きのパラママンガのアニメーションを紹介する。高校時代に古川タクの『驚き盤』に衝撃を受け、作家を志した岩井の原点的作品である。

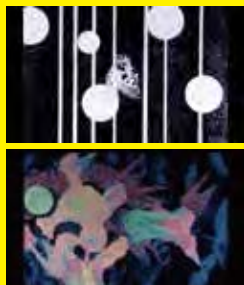


TOSHIO IWAI
岩井俊雄

『石化(一)』(1982年/6分/16mm上映)

『(二)海の底』(1985年/3分/16mm上映)

1979年に結成した石田園子と木船徳光の作家ユニット「IKIF」は、様々な素材や技法による実験アニメーションやインスタレーションを制作している。彼らのアニメーション作品の中から、ゼロックスコピー機と蛍光素材を使った2作品を紹介する。



IKIF
IKIF

『蟻の生活』(1994年/14分/16mm上映)

ドローイングや立体物でアニメーションを制作する浅野優子の作品から、バベットを使ったアニメーションをとりあげる。本作はメーテルリング「蟻の生活」から発想した蟻たちとカマキリの物語で、繊細で美しい世界に引き込まれる。



YUKO ASANO
浅野優子



『WONDER』(2014年/8分/デジタル上映)

細胞や幾何学図形をモチーフとしたアニメーションが特徴的な水江未来の代表作である本作は、1年365日毎日24コマ手描きをして制作された。音楽はバスカルズが担当している。

MIRAI MIZUE
水江未来



MASA KUDO
工藤雅

『差異と反復とコーヒー』

(2020年/4分/デジタル上映)

時間や空間、記憶をテーマに、ドローイングや写真技法を用いて制作する工藤雅の作品から、すべて鉛筆で描かれたアニメーションを紹介する。舞台はなかなかメロディーの入らないレコードが流れる喫茶店、店内の様子は車窓を眺めているように移り変わっていく。



HSUTSEN-CHU
許岑竹

『Cotton Sugar』

(2009年/4分/16mm上映)

台湾出身の映像作家である許岑竹はフィルムを加工し生まれる表現を探究している。染料を含んだコットンでフィルムを着色して制作した本作は、多層になった物質の質感が感じられる作品である。

アニメ あ・ら・かると

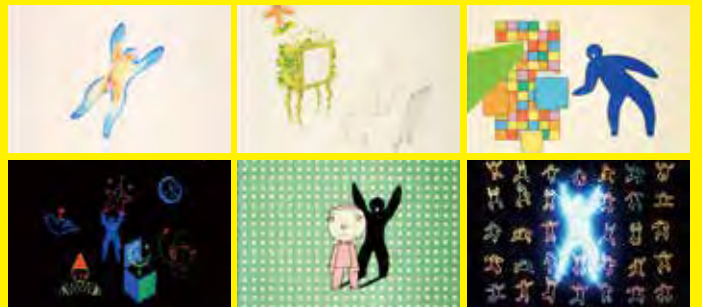
『アニメ あ・ら・かると』

(1989年/10分/デジタル上映)

粟津潔がデザインした川崎市市民ミュージアムのロゴマークをモチーフに、20名の作家とワークショップ参加者が制作した連作アニメーション。

演出: 福島治 音楽: 美尾洋乃 企画・製作: 川崎市市民ミュージアム

参加作家: 鈴木伸一、藤幡正樹、山根恵子、伊藤徳彦、保江圓、ダニカ・ベネット、石田卓也、小野耕世、岩井俊雄、古川タク、林静一、山村浩二、浅野優子、関口和博、IKIF、相原信洋、古屋和斉、南家こうじ、福島治、久里洋二(作中編集順)



今夏開催の「さわれるシネマ 35mm映画フィルムでショートアニメ制作ワークショップ」で制作した作品も上映します。

会場 ラゾーナ川崎プラザソル

〒212-8576 川崎市幸区堀川町72-1 ラゾーナ川崎プラザ5F

交通: JR川崎駅中央改札よりホール入口まで徒歩約5分

※ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。ホール内は飲食禁止です。

問い合わせ先 川崎市市民ミュージアム

TEL: 044-712-2800 (土日祝を除く8:30~17:15) FAX: 044-712-2804

Mail: 25museum@city.kawasaki.jp